

キ

リ

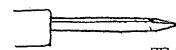
名古屋大学 森 下 一 期

昭和 20 年頃の大工さんは、キリを 26 種ぐらい持っていたとのことです。皆さんはどうなキリを知っていますか？ 最近見ることのできるものはせいぜい四ツ目ギリか三ツ目ギリくらいでしょう（図 1）。

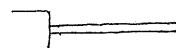
キリは穴を開けるものですから、現代ではハンドドリルや電気ドリルがよく使われるようになつたため、上の二つのキリしか広く使われることがなくなったのだと思います。以前は、図 2 のようなつぼギリ、ねずみ歯ギリといったものもありました。つぼギリには直径が異なるものがいろいろあり、直径数ミリのきれいな穴を開けるのに使われました。つぼギリが一番よく使われたのは、釘の頭が表面に出ないように打ち込んで、木のフタをするための穴を開けることでしょう（これを隠し釘と言います。図 3）。昔の木の椅子はこのような隠し釘で打たれていましたので、私なども、授業中に爪で木のフタをほじくり出して誰かにぶつけるといったわるさをしたものでした）。

大きな穴を開けるためには、ラセンギリとか、くりこギリが使われました。この二つの違いは、穴を開けるところのキリを回す機構が違うという点だけです。キリは同じで、前者は図 4 のキリの頭に柄や棒をつけて廻わします。後者は図 5 のように効率よく廻わす構

造をしています。



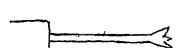
四ツ目ギリ



三ツ目ギリ



つぼギリ



ねずみ歯ギリ

図 1
ただ突きさすだけです。ですから切りクズは出ません。しかし、キリは切りクズが出ますね。そうです、キリには刃がついているのです。四ツ目ギリは四角の角が鋭く直角になつていなければよく切れません。三ツ目ギリもそうです。他に紹介したキリならば なおさら刃が大切になります。

このようにキリには刃がついていますから硬くなければダメです。そのため、キリ先には焼き入れをして硬度を高めます。従って折れやすくなります。直すぐ立てて、垂直にもまないと折れてしまうのです。ましてや、机に向けて投げつけ突き立てるようなことをしたらキリ先は折れてしまうでしょう。

キリの刃を大切にしましょう。キリもみは小学校一年生ぐらいから出来そうです。

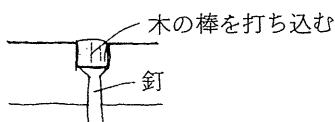


図 3 隠し釘



図 4 木工キリ

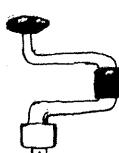


図 5 くりこギリ